



小雀公園 里山通信



Vol.20 ホタルの生息環境保護作業



6月になると、ホタルの話をニュースなどで耳にするようになります。小雀公園にはヘイケボタルが生息しているのですが、ホタルがどのように生活しているかご存じですか？一生の大部分を幼虫として水中で過ごし、春になると水辺近くの陸でさなぎになり、わずか1週間程度の期間を成虫となって飛翔し、水辺付近に卵を産んでその一生を終えます。このようにホタルが生息するのは水辺であり、その水辺を維持するのが非常に難しいため、ホタルが見られる場所は各地で少なくなっています。

ホタルが生息している小雀公園のヨシ原は、汚染水が流れ込まないように基本的には山からの絞り水に頼っているのですが、水量が少ないためとても貴重な水となっています。さらには土砂堆積や植物の繁茂により、水生生物が棲める水辺が狭くなってしまいました。そこで少しでも改善できるようにと、実施している試行錯誤の作業の様子をご紹介します。



↑ 作業前のヨシ原



↑ 萌芽したハンノキ

まず昨年ハンノキの一部を伐採（萌芽更新）しました。これは暗くなりすぎたヨシ原に光が届くようにすることで、ホタルの幼虫が食する貝類のエサとなる珪藻類が増えるようになります。続いてホタルの生息する水域を広げるため、キシウブなど不要な植物を抜きました。また、水面を覆うように繁茂しているセリを除去したところ、ヘイケボタルが好みそうな、浅い水辺が現れました。でもこんなに浅い水辺で大丈夫？と思われるかもしれませんが、ヘイケボタルはヒタヒタ程度の浅い水深で十分育ちますし、深くて大きな池を掘ってしまうと、大型トンボのヤゴが増えてしまい、ホタルの幼虫などがみんな食われてしまう恐れがあります。あとはヨシが伸びてきたところで一度刈り取りを行い、飛翔する水生昆虫が水辺を認識できるようにすることで、ホタルだけではなくイトトンボなどの水生生物が増えてくれることを期待しています。

また、一気に環境を変えてしまうと逆に悪影響を及ぼす恐れもあるので、少しずつ実験的に作業を行い、結果を見ながら次の作業へとつなげていきます。実際に水辺が見えたとともに小型のトンボがワッと集まってきたりもしました。結果は数年たたないとわからないものが多いですが、少しずつでもよい環境になるよう頑張っていますので、みなさんも見守っててくださいね！

また、一気に環境を変えてしまうと逆に悪影響を及ぼす恐れもあるので、少しずつ実験的に作業を行い、結果を見ながら次の作業へとつなげていきます。実際に水辺が見えたとともに小型のトンボがワッと集まってきたりもしました。結果は数年たたないとわからないものが多いですが、少しずつでもよい環境になるよう頑張っていますので、みなさんも見守っててくださいね！



↑ 作業後のヨシ原



小雀公園 ☎045-853-1945
<https://midocomi.com/kosuzumepark.html>
 横浜市指定管理者 緑とコミュニティーグループ

